

非認知スキルの向上に関する研究結果のご報告

2025 年 8 月

(公社) 子どもの発達科学研究所

令和 6 年度に実施した「非認知スキルの向上に関する研究」の結果についてご報告します。

1 研究の概要

令和 6 年 10 月から令和 7 年 2 月にかけて、皆様のお子様（研究参加校の 5 年生）に、学級担任による「非認知スキル教育プログラム MELOG（ミーログ）」の授業を受けていただきました。この授業は、非認知スキル（感情の理解、他者への思いやり、自己肯定感など）の向上を目的としたものです。

この研究では、授業の前後で非認知スキルに関するアンケート調査を実施し、授業による非認知スキルへの効果を調べました。

(1) 研究の目的

非認知スキル、具体的には、感情のコントロールやコミュニケーション能力を育む教育プログラムの効果を調査すること

(2) 研究のスケジュール

研究参加校を 2 つのグループに分けました。2 つのグループそれぞれ、プログラムの実施前後など、4 回、アンケートに回答していただきました。主なスケジュールは下記の通りです。データとして収集するのは、お子様の非認知スキル、及び、ウェルビーイングの状態に関することでした。

スケジュール表

時期	9月	10月	11月	12月	1月上旬	1月	2月	2月下旬	翌年度
グループ 1		同意取得 事前調査	非認知教育 プログラムの実施	事後調査	フォロー アップ 調査			フォロー アップ 調査	報告
グループ 2						非認知教育 プログラムの実施			

2 研究の結果

(1) 結果の概要

今回の研究では、「非認知スキル教育プログラム MELOG（ミーログ）」によって非認知スキル及び子どものウェルビーイングが向上したという結果は得られませんでした。

私たちは、「非認知スキル教育プログラム MELOG（ミーログ）」の授業を行ったグループが、行っていないグループと比較して、非認知スキルが向上するのではないかと仮説を立てたのですが、実際には、授業を行ったグループも行っていないグループも非認知スキルが向上していました。品川区の学校では、この「非認知スキル教育プログラム MELOG（ミーログ）」以外に、子どもの発達科学研究所が提供する、いじめ予防プログラム「トリプルチェンジ」他、さまざまな教育活動が行われています。そのため、今回実施した「非認知スキル教育プログラム MELOG（ミーログ）」単独の効果を抜き出して計測することが難しかった、ということだと考えられます。

研究としては、仮説が証明できなかったわけですが、対象となった児童及び学校における非認知スキルが向上していることは明確であり、それ自体は良い結果であったと考えられます。

(2) 結果の詳細

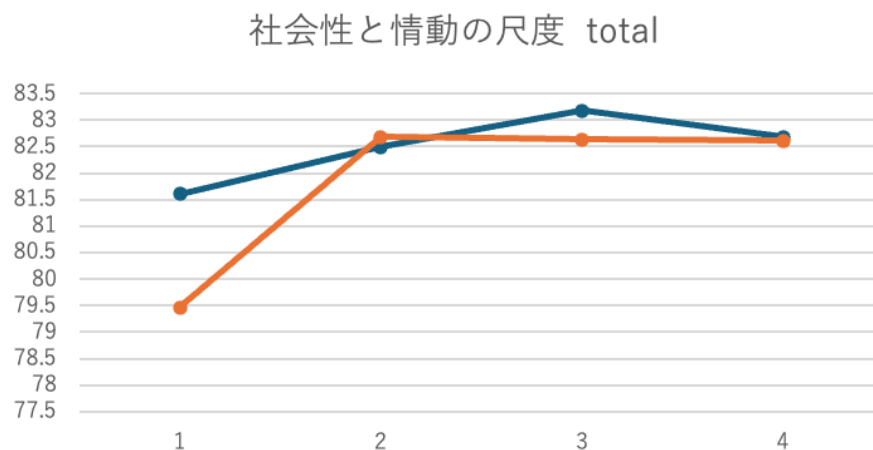
この研究では、研究参加校を2つのグループ、グループ1とグループ2に分けて、グループ1は令和6年10月後半から12月に、グループ2は令和7年1月から2月に、MELOG 授業を実施しました。

アンケート調査は、グループ1、2共に計4回、グループ1のMELOG 授業を行う前後、グループ2のMELOG 授業を行う前後に実施しました。仮説としては、グループ1、2共に、MELOG の授業の前と後ろで、行っていないグループと比べて非認知スキル（小学生版社会性と情動の尺度）とウェルビーイング（WHO-5）の尺度それぞれで向上することを期待しました。

「非認知スキル(社会性と情動の尺度)」総得点、及び「ウェルビーイング」総得点の推移を以下のグラフに示しています。

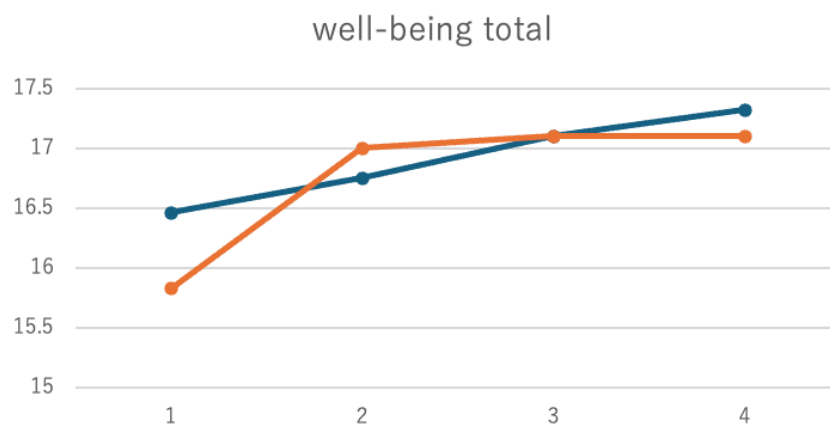
非認知スキル（小学生版社会性と情動の尺度）

青：グループ 1 赤：グループ 2



ウェルビーイング（WHO5）

青：グループ 1 赤：グループ 2



「非認知スキル教育プログラム MELOG（ミーログ）」の授業の実施によって、非認知スキル及びウェルビーイングが向上するという結果は得られず、MELOG 授業の実施とは関係なく第 1 回から第 2 回にかけて、グループ 1、2 共に向上し、そのまま保持されました。

これは、今回の研究をするにあたり、品川区の小学校という、MELOG 授業以外にもさまざまな取組が重層的に行われている地域に限ったこと、参加する学校数が 2 校ずつと少なかったことがこの結果に影響していると考えられます。

したがって、この結果から、MELOG 授業の効果がないと結論づけることはできません。今後、研究を進めるにあたり、特定の地域に限ることなく、参加校の数を広げて実施すること、研究参加校について事前に調査を行い、MELOG 授業と同様の目的、内容の非認知スキル教育を行っていない学校に限って研究を行うことなどが必要であると考えます。

今回の研究を通して、当初の目的である「非認知スキル教育プログラム MELOG（ミーログ）」の効果を確認することはできませんでしたが、研究参加校における非認知スキル及びウェルビーイングの上昇とその保持について確認することができ、研究参加校の教育の質の高さが確認されました。

3 終わりに

今回の研究参加校の校長先生、担任の先生、児童、保護者、品川区教育委員会の皆様のご協力に心から感謝いたします。

今回の研究結果を活かし、子どもたちの健全な発達と将来の幸せのために、これからも研究活動等を進めていきますので、今後ともよろしくお願い致します。

【問い合わせ先】

公益社団法人 子どもの発達科学研究所

メールアドレス : info@kohatsu.org 電話 : 053-456-0575

ホームページ : <https://kohatsu.org>